



源氏物語の色 -33 「藤裏葉」

光源氏の誕生から栄華を極めるまでを描いた第1部の最後にあたるこの帖では、「夕霧、雲居雁と結婚」「明石の姫入内」「光源氏、准太上天に」といった明るい話題が続く。

長年想いを寄せてきた雲居雁の父、内大臣から藤の宴に招かれたことを報告した夕霧に、光源氏が濃い二藍は若々しすぎるから大人っぽい色のものを着けて行くようにと、自分用に仕立てあった直衣を贈る場面がある。

直衣は、男性の上流の貴族の日常着で、夏(四～九月)の直衣は一重。色は、本来自由だが、位色や凶服の色を避けるなど社会的制約からおよその色が決まっていた。二藍が基本で、若年ほど紅が濃いものを、年長になるほど紅が薄く、藍の比率が多いものを着用し、四十歳以降は縹が一般的であったという。

五十三歳の父、光源氏から、十八歳の子、夕霧への助言はこの様な当時の慣習ゆえだが、親心と共に、夕霧と雲居雁の結婚につながる藤の宴への招待を重くとらえていることを読者に印象付けていると感じる。(平山)

◆渋谷典会員が執筆されていた「源氏物語の色」を今号から、Costume Jewelry & Color Coordinate の Atelier WANOKA 代表の平山和香子会員に執筆をお願いしました。ご期待のほどを。(永田)

●回転混色 100色折紙の利用

本通信の237号で紹介した「100色折紙」を、回転混色円盤の制作ワークショップに利用したら良いと思います。

利点の1は大きさが15cm角であること。2は100色と多色であること。3は二組で594円、一枚3円と安いこと。小さいクラスなら1組で十分であることなどです。

CDやコンパスを使って円形に切るだけで回転混色円盤ができることが利点です。

用途は、「中間色」を作ること。「補色」を確かめることなど共同作業に向いています。

発売元は、エヒメ紙工株式会社で問合せ先は(Tel.0896-58-3365)。ホームページは <http://www.ehimeshiko.com/>



◆回転混色に関する投稿を募集します。(永田泰弘)

●第5回色彩教材研講座のご報告 - 3

第5回色彩教材研究会オンライン講座の質疑応答とアンケートの一部、その3です。

Q：影はなぜ透明に見えるのか？

A：それは透明視の要件に合致しているからです。影は加算的色変換の場合に強い色の錯視が発生します。

それはゲーテが発見し色陰現象として既に知られているものですが、特殊なものとして理解されていて加算的色変換のことが十分理解されていないことによります。

また、下の著書を参考にしてください。「だまされる視覚・錯視の楽しみ方」化学同人

◆大変興味深く、実際に自分で作って試していますが、今日の動画なども作ってみようと思いました。

◆大変楽しそうにお話されているのが印象的でした。研究そのものを楽しんでいらっしゃる事、又、おらかなお人柄が伝わってきました。

◆RGBとCMYの新たな表現の仕方が面白かったです。先生がオリジナルで開発されたプログラムは、教材としていろいろ活用出来そうです。等々

以上
またのご参加をお待ちしております。(三本)